

第1学年 道徳学習指導案

平成29年6月20日（火）第5校時

- 1 主題名 ありがとうをつたえたい 内容項目 [B 感謝]
- 2 ねらい 身近で日頃お世話になっている人々の存在に気づき、感謝の気持ちをもって接しようとする態度を育てる。
教材名 「はちさんのひみつ」 （出典：「みんなのどうとく 1年」学研）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校1学年及び2学年における[B 感謝]の指導の観点は、「家族など日頃世話になっている人々に感謝すること」である。

よりよい人間関係を築くためには、互いに認め合うことが大切であるが、その根底には、相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。低学年の段階においては、特に日頃世話になっている人々に気づかせ、感謝する気持ちを具体的な言葉にし、行動に表すことが大切であると考えます。

1年生の段階では、自分のために身近な人たちが何かをしてくれても、それを当たり前のように感じていたり、「うれしい」という気持ちはあっても、具体的な言葉に表したりするのが難しかったりする。そこで、何気なく見過ごしている、日常における様々な人々とのかかわりにおいて、いろいろな善意を受けていることを改めて考える機会を設けることが大切である。そして、たくさんの人たちにお世話になっていることに気づかせ、感謝の気持ちをもつことの大切さを考えさせたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、入学してからこれまで、多くの方々に支えられて生活してきた。6年生には、早く学校生活に慣れるために、身の回りの世話をしてもらったり、一緒に遊んでももらったりした。年齢が近く親しみやすい2年生には、生活科で遊んでももらった。また、養護教諭をはじめ、給食担当の職員など、多くの教職員に支えられながら生活してきた。さらに、学校内にとどまらず、読み聞かせボランティア、交通安全指導員の方々、地域の方々などにもお世話になっている。それらの方々と一緒に活動したり、教えてもらったりしているときの子どもたちの表情からは、明るく、生き生きとし、かかわり合う喜びを味わっていることが感じられる。しかし、「楽しい」や「うれしい」という気持ちはあっても、楽しい活動を支えてもらっているという認識は薄く、感謝の思いを表現するまでには至っていないように思われる。今回の授業を通して、たくさんの人々にお世話になっていることに気づき、感謝の気持ちをもたせたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公「くんちゃん」が、学校の登下校時にいつも会うルーおばあちゃんがかばんにつけているはちさんバッジのひみつに気づく話である。くんちゃんは最初は、毎日二回会っている

ルーおばあちゃんのことを、はちさんバッジをつけているおばあちゃん、毎日二回も散歩に行けていいなとしか思っていない。でも、本当はくんちゃんの登下校時間を忘れないように一年生が登校する八時と下校する三時にはちさんバッジなのだということをお母さんに教えてもらい、ルーおばあちゃんは、いつも自分たちのことを考えて散歩をしてくれていたということに気づくという内容である。

くんちゃんは自分と同じ一年生であるというところから話に沿って共感させていく。その際、紙芝居を取り入れ、一度区切りをつけて読むことにより、前半のくんちゃんが思っているルーおばあちゃんへの思いと、後半のはちさんバッジに込められたルーおばあちゃんのくんちゃんへの思いをくんちゃんの気持ちの変化をとらえながら考えさせていきたい。

導入では、児童に毎日お世話になっている人について振り返らせ、その人の写真を教室に掲示する。授業の最後では児童のいつもお世話になっている人が自分たちのことを考えてくれていたんだという気づきが増え、最初に掲示したお世話になっている人の写真より後から発表させたお世話になっている人の写真がどれくらい増えたのかということにも着目していきたい。

そして、話十分に共感させ、くんちゃんの気持ちの変化に気づいたところで自分を振り返って考えさせ、今まで何気なく周りにいた人が実は自分のことをいつも思ってくれていたんだということに気づかせる。そして、その人にどんなことを伝えたいか、また、これからはどうしていきたいかなどを考えさせ、書かせるようにしていきたい。

終末では、ゲストティーチャーとして、児童の身近な安全監視員さんからいつもどんな思いで児童の登下校、安全を見守っているのかという思いを話していただき、児童がお世話になっている人の気持ちを知り、感謝の気持ちをもたせていきたい。

展開では、本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合うことにする。

① くんちゃんが登下校時にルーおばあちゃんに会う場面

ここでは、毎日会うルーおばあちゃんにどんな気持ちで挨拶をしているか考えさせる。

※くんちゃんが思っているルーおばあちゃんへの思いと、はちさんバッジに込められたルーおばあちゃんのくんちゃんへの思いをより際立たせるために、①と②の間で一度区切りをつける。

② くんちゃんが、ルーおばあちゃんのはちさんバッジのひみつをお母さんから聞く場面

ここでは、お母さんの話を聞いたくんちゃんがどんなことに気づいたのかを考えさせる。

③ くんちゃんがわくわくしながら布団に入った場面

ここでは、感謝の気持ちをどう表すことが大切なのかについて考えさせる。

4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ★評価の観点	時間
導	1 毎日お世話になっている人について振り返る。 ・みなさんは毎日どんな人にお世話になっ	・お父さん、お母さん(家族)	・日頃お世話になっている人々の顔写真を見せることで、普段あたり前になっている光景を意識させ、資料への導入とする。	

入	<p>ていますか。 2 本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通指導員さん ・安全監視員さん ・先生 		5分
<p>いつもお世話になっているひとについてかんがえよう。</p>				
展 開	<p>3 資料について知る。 ・条件・状況を知る。 ・資料の範読を聞く。</p> <p>4 主人公「くんちゃん」の気持ちを中心に話し合う。</p> <p>(1)登下校時にルーおばあちゃんに会うくんちゃんは、どんな気持ちでしょう。</p> <p>(2)くんちゃんは、お母さんから、ルーおばあちゃんがバッジをつけて散歩をしている本当の理由を聞いて、どんなことを考えたでしょう。</p> <p>(3)わくわくしながら布団に入ったくんちゃんは、どうしてはやく明日にならないかなって思ったのでしょうか。</p>	<div data-bbox="569 611 963 925" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>登場人物くんちゃん ルーおばあちゃん 条件・状況 毎日ルーおばあちゃんに会う・ルーおばあちゃんはハチさんバッジをつけている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・今日も、おばあちゃんに会えた。うれしいな。 ・ぼくの大好きなはちみつのはちのバッジをつけているな。 ・ぼくたちの時間に合わせて見守ってくれていたなんて、知らなかった。 ・時間を忘れないようにはちさんのバッジをつけて、ぼくたちを守ってくれていたんだ。 ・いつもぼくたちのことを見守ってくれてありがとうって言いたいから。 ・お礼を言いたいから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居で資料を区切って提示することにより、くんちゃん、ルーおばあちゃん双方の思いを際立たせる。 ・30ページの3行目まで読む。 ・自分の立場だけでルーおばあちゃんを見ているくんちゃんのお気持ちをおさえる。 ・後半から最後まで読む。 ・「なぜだとおもう。」というお母さんの言葉がくんちゃんのお気持ちを変容させるきっかけとなる。「へえ、そうだったんだ。」に隠れている、お世話になっていたことへのくんちゃんのお気づきや尊敬、感謝の思いを引き出したい。 ・ルーおばあちゃんに対するくんちゃんのお気持ちに迫るようにする。 ・自分の思いの変化を感じ取り、ルーおばあちゃんへの尊敬と感謝のお気持ちをもちかえらせる。 	25分

	<p>3 今までの自分を振り返り、よりよい生き方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 改めて毎日を振り返って、お世話になっている人がもっといるかな。その人にどんなことを言いたいかな。 これからはどうしていきたいかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 配膳員さん 読み聞かせの人 読み聞かせで本が好きなようになったよ。ありがとう。 交通指導員さんに挨拶しないで通っていたから、今度は言うようにしよう。 これからは元気な挨拶をしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く活動を取り入れ、日常生活を振り返り、自分自身の思いや態度を見つめさせる。(ワークシート) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>★お世話をしてきている人への感謝の気持ちをもつことができたか。 (ワークシートの記述・発言)</p> </div>	12分
終末	<p>4 安全監視員さんから児童に対する思いや願いを含めたお話を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 児童の安全を願って行っていることや、元気な挨拶が励みになることなど、思いを話していただく。 	3分

5 他の教育活動との関連

- 生活科で2年生に遊んでもらったり、遠足に連れて行ってもらったりする活動で感謝の気持ちを伝えられるようにする。
- 生活科の「昔あそび」で、ゲストティーチャーに感謝の気持ちを伝えられるようにする。
- ふれあい活動で縦割り班のお兄さん、お姉さんに感謝の気持ちを伝えられるようにする。
- 毎日帰りの会で行う「ほめほめタイム」では、毎日友だちのよいところを発表して称賛し合うことで、友だちのよさを認め、感謝の気持ちをもつ意欲を高める。

6 評価の観点

〈児童の学習状況の評価〉

- 日頃お世話をしてきている人々の存在に気づき、その人々に対する感謝の気持ちをもつことができたか。

〈児童の道徳性に係る成長の様子の評価〉

- 日頃お世話になっている人々に感謝の気持ちを伝えようとする意欲が高まったか。

7 板書計画

<p>ありがとうのきもち</p>	<p>布団に入る場面絵</p> <p>・いつもありがとう。 ・ぼくたちのことをかんがえてくれてありがとう。</p>	<p>わくわくしながらふとんにはいった。</p>	<p>お母さんが話す場面絵</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくたちのじかんにあわせてくれていたんだ。 ・じかんをわすれないようにはちさんばっじをつけていたんだ。 	<p>一ねんせいがかっこうにいくあさのはちじと、かえってくるさんじ。</p>	<p>おばあちゃんに二回会った場面絵</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きょうもおばあちゃんにあえた。 ・にかいもおさんぽできていいな。 ・ぼくのだいすきなはちさんばっじをつけている。 	<p>まいにちルーおばあちゃんにあう。</p>	<p>はちさんばっじをつけてさんぽ。</p>	<p>はちさんのひみつめあて いつもおせわになっているひとについてかんがえよう。 くんちゃん ルーおばあちゃん</p>
------------------	--	--------------------------	--	--	---	-------------------------	------------------------	---

8 ワークシート

<p>ぼく・わたし</p>	<p>いいたいこと</p>	<p>だれに</p>	<p>はちさんのひみつめあて いつもおせわになっているひとについてかんがえよう。 一、ふりかえりをかこう。</p>
---------------	---------------	------------	---